

プログラム概要:

9月2日(火)

13:00～14:30 編集委員会 542 教室

14:30～16:00 カルチャーコレクション委員会 542 教室

16:00～18:00 理事会 542 教室

9月3日(水)

9:20～9:30 開会の挨拶 531 教室

9:30～11:00 実務ワークショップ 531 教室

11:00～12:00 ポスター ラウンジ

13:00～15:00 微生物資源シンポジウム 531 教室

15:20～16:10 総会・授賞式 531 教室

16:20～17:50 受賞講演 531 教室

18:00～20:00 懇親会(レストランすずしろ)

9月4日(木)

9:15～11:00 一般講演 531 教室

11:15～13:15 系統分類シンポジウム 531 教室

13:15～13:30 閉会 531 教室

ポスター発表について:

ポスターは A0 サイズ(縦)以内で作成してください。固定用のテーブルは会場に準備します。9月3日 11:00 までに発表者自身で掲示してください。また、大会終了時まで撤去してください。

口頭発表について:

USB メモリでデータをご持参頂き、会場設置のパソコン(Windows7, PowerPoint 2010)をご利用ください。もしくは各自のパソコンをご使用ください。その場合は必要に応じて(特に Macintosh の場合)ミニ D-Sub 15 ピン・コネクタに対応するよう準備をお願いします。

プログラム:

[実務ワークショップ](9月3日 9:30～11:00) 531 教室

「微生物管理における学名に関する問題点」

微生物を管理していくうえで、学名というのは学問的にも、または法律的にも非常に大きな意味を持ちます。それぞれの学名は永久不滅のものではなく、科学の発達とともにいくつもの変遷をたどってきました。学名上の混乱は、業務の混乱を引き起こします。学名の入門的なことも含め、学名にまつわる問題点と解決に向けた活動について、3名の識者の方に解説していただきます。

1. 真菌類の二重命名法の廃止に伴う学名統一議論の動向～いもち病菌等を例に～

青木孝之(農業生物資源研究所遺伝資源センター)

2. 微細藻類の学名のタイプをめぐる諸問題

仲田崇志(慶應義塾大学政策・メディア研究科先端生命科学研究プログラム/先端生命科学研究所)

3. *Candida* 属とは何か?～命名法改訂がもたらす酵母学名の再編～

遠藤力也(理化学研究所バイオリソースセンター)

[ポスター発表](9月3日 11:00～12:00) 1号館5階ラウンジ

P-1 醤油諸味から分離されたヒスタミン生成乳酸菌の性質

○辻 聡¹, 松中 佑也², 牧田 紗知¹, 館 博¹

¹東京農業大学短期大学部醸造学科, ²東京農業大学応用生物科学部醸造科学科

P-2 宮古島のマングローブに生息するカビの分布とセルロース分解能の検討

○菊地 淳史¹, 田中 尚人², 梶川 揚申¹, 佐藤 英一¹, 岡田 早苗^{1,2}

¹東京農業大学応用生物科学部生物応用化学科, ²東京農業大学菌株保存室

P-3 *Armadillidium vulgare* (オカダンゴムシ) 排泄物を分離源とした細菌の分離と解析

○飯田 敏也, 國則 成史, 工藤 卓二, 大熊 盛也

理研 BRC-JCM

P-4 インドネシア産のニワトリ盲腸内から分離した嫌気性細菌の分類学的研究

○入澤 友啓¹, Sugiyono Saputra², 坂本 光央¹, 北原 真樹¹, Sulistiani², Titin Yulinery², Achmad Dinoto², 大熊 盛也¹

¹理研 BRC-JCM, ² Microbiology Division, Research Center for Biology, Indonesian Institute of Sciences (LIPI)

P-5 *Chloroflexi* 門・*Ktedonobacteria* 綱に属する *Thermosporothrix* 属の分離

○矢部 修平¹, 酒井 康輝¹, Ricky Karta Atmadja², Abinubli Tariswafi Mawarid², 葉坂 勝¹, 横田 明²

¹株式会社県南衛生工業 ハザカプラント研究所, ²Faculty of Mathematics and Natural Sciences, University of Indonesia

P-6 タイ発酵食品から分離した乳酸菌 3 新種について

○宮下美香¹, Pattaraporn Yukphan², Winai Chaipitakchonlatarn², Taweesak Malimas², 杉本昌子¹, 吉野真由美¹, 鎌倉由紀¹, Wanchern Potacharoen², Somboon Tanasupawat³, 田中尚人⁴, 中川恭好¹, 鈴木健一郎¹

¹ 独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター (NBRC), ²National Center for Genetic Engineering and Biotechnology (BIOTEC), ³Chulalongkorn University, ⁴東京農業大学菌株保存室

P-7 酸性飲料より分離された新規 *Alicyclobacillus* 属の分類学的研究

○中野千紗¹, 高橋尚人¹, 田中尚人², 岡田早苗^{2,3}

¹カゴメ株式会社, ²東京農業大学菌株保存室, ³東京農業大学応用生物科学部生物応用化学科

P-8 北海道の温泉から分離した微好気性 *Thermus* 属菌株の分類学的研究

○伊藤 隆¹, 塚田真見^{1,2}, 佐野充佳^{1,2}, 高品知典², 工藤卓二¹, 大熊盛也¹

¹理研 BRC-JCM, ²東洋大学生命科学部

P-9 多遺伝子座配列解析による嫌気性グラム陰性桿菌の分子系統

○坂本光央, 大熊盛也

理研 BRC-JCM

P-10 *Colletotrichum boninense* および *C. dematium* 種複合体に所属する NIAS Genebank 保有菌株の分子再同定

○佐藤豊三¹, 森脇丈治², 澤田宏之¹, 永井利郎¹, 一木 (植原) 珠樹¹, 青木孝之¹

¹農業生物資源研究所, ²農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター

P-11 NBRC 担子菌株に対するパーライト法の効果の検証その1

○佐藤真則¹, 佐々木友美¹, 井上竜太郎¹, 資延淳二², 稲葉重樹², 中桐昭^{1,3}

¹ 独・製品評価技術基盤機構特許微生物寄託センター, ² 独・製品評価技術基盤機構生物資源課, ³ 鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

P-12 L-乾燥アンブル作製に用いられる細胞保護剤の種類がゲノム配列に及ぼす影響

○下平潤, 佐藤真則, 安樂茜, 橋本麻衣子, 平方里美, 細山哲, 内野 佳仁, 山副敦司, 藤田信之
独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター (NBRC)

P-13 *Colletotrichum gloeosporioides* 種複合体に属するニチニチソウ炭疽病菌の硝酸塩利用能欠損変異株

○富岡啓介, 野見山孝司, 関口博之, 大崎秀樹, 竹原利明

農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター

P-14 納豆菌フェージ JNDMP のクリアプラーク変異株

○永井利郎, 一木(植原)珠樹, 澤田宏之, 青木孝之, 佐藤豊三
農業生物資源研究所・遺伝資源センター

P-15 農業生物資源ジーンバンクが保有する植物ウイルス株の特性評価

(1)コートプロテイン遺伝子の効率的シーケンシング

○一木(植原)珠樹, 青木孝之, 澤田宏之, 永井利郎, 佐藤豊三, 花田 薫, 藪中恭子, 杉本るり子,
大橋美保, 中島比呂美, 熊谷みどり, 竹谷 勝, 山崎福容, 根本 博
農業生物資源研究所遺伝資源研究センター分類・評価研究ユニット

P-16 2013 年度の FMRC 活動報告と展望について

○中桐 昭, 早乙女梢, 前川二太郎, 牛島秀爾, 岡久美子
鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

P-17 農業生物資源ジーンバンク事業の微生物部門(MAFF)における 2013 年の活動と成果

○青木孝之, 一木珠樹, 澤田宏之, 永井利郎, 佐藤豊三, 竹谷 勝, 山崎福容, 中島比呂美, 熊
谷みどり, 根本 博
農業生物資源研究所

P-18 NBRC 平成 25 年度事業報告

○崎山弥生, 藤田克利, 鎌田 幸, 中川恭好, 山崎秀司, 鈴木健一朗, 中川純一
独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター(NBRC)

P-19 NIES 藻 類コレクションの 2013 年度活動報告

○森 史¹, 湯本康盛¹, 石本美和¹, ノエル マリーエレン², 佐藤真由美², 河地正伸²

¹地球・人間環境フォーラム, ²国立環境研究所

P-20 乳酸菌株資源の高付加価値化に向けて

○田中尚人¹, 鈴木智典², 富田理³, 梶川揚申⁴, 内野昌孝⁴, 佐藤英一⁴, 五十君静信⁵, 岡田早
苗^{1,4}

¹東京農業大学菌株保存室, ²東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学科, ³農研機構食
品総合研究所, ⁴東京農業大学応用生物科学部生物応用化学科, ⁵国立医薬品食品衛生研究所
食品衛生管理部

[微生物資源シンポジウム](9月3日 13:00~15:00) 531 教室

「資源の開拓から実用化へ向けて」 コンビナー: 岡田早苗, 田中尚人

微生物資源の重要性は認識され, 現在はカルチャーコレクションの役割も大きくなってきています.
それに加えて, 今後は収集された微生物資源をいかに活用していくか, 技術開発等への貢献も必
要になると考えられます. そこで本シンポジウムでは様々な資源利用に関する研究をされている 4

名の先生方に資源の実用化についてご講演していただきます。

S1-1 (13:00～13:30)

微細藻類ユーグレナによる有用物質生産の現状と将来の可能性

鈴木健吾

株式会社ユーグレナ

S1-2 (13:30～14:00)

伝統発酵漬物(すんき漬)の機能性乳酸菌を用いた発酵豆乳の作製

保井久子

木曾町地域資源研究所

S1-3 (14:00～14:30)

発電微生物

渡邊一哉

東京薬科大学生命科学部応用生命科学科

S1-4 (14:30～15:00)

草木材からエタノールをつくる触媒技術の実用化展開

市川 勝

北海道大学名誉教授

[学会賞受賞講演](9月3日 16:20～17:20) 531 教室

厄介な菌株の保存に取り組んで ―真菌類培養株の保存法の改良―

中桐 昭

鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

[奨励賞受賞講演](9月3日 17:20～17:50) 531 教室

Phylum *Bacteroidetes* と酢酸菌に関する分類学的研究

村松由貴

独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター

[一般講演](9月4日 9:15～11:00) 531 教室

O-1 (9:15～9:30)

ナガキクイムシ複合共生系から微生物資源を獲る

○遠藤力也¹, 升屋勇人², 大熊盛也¹

¹理研 BRC-JCM, ²森林総合研究所

O-2 (9:30-9:45)

木曾町土壌からの枯草菌の分離とその特性調査

○青島一紀¹, 稲垣秀一郎¹, 保井久子²

¹信州大学大学院機能性食料開発学専攻, ²木曾町地域資源研究所

O-3 (9:45-10:00)

西表島からの *Demeqinaceae* 科放線菌の分離とゲノム情報を利用した分類研究

○浜田盛之, 柴田千代, 市川夏子, 細山 哲, 小牧久幸, 田村朋彦, 藤田信之, 鈴木健一郎

独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター(NBRC)

O-4 (10:00-10:15)

Bacteroidales 目に属する鉄腐食細菌およびその関連菌

○飯野隆夫¹, 森浩二², 伊藤隆¹, 工藤卓二¹, 鈴木健一郎², 大熊盛也¹

¹理研 BRC-JCM, ²独・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター(NBRC)

O-5 (10:15-10:30)

緑藻群体性ボルボックス目の新属2種の分類と分布

○野崎久義¹, 山田敏寛¹, 高橋文雄², 松崎令¹, 仲田崇志³

¹東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻, ²立命館大学生命科学部, ³慶應義塾大学政策・メディア研究科先端生命科学研究プログラム/先端生命科学研究所

O-6 (10:30-10:45)

氷雪緑藻クロモナス属の培養株のみを用いた種の識別

○松崎 令¹, 原 慶明², 野崎 久義¹

¹東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻, ²山形大学基盤教育院

O-7 (10:45-11:00)

担子菌に関するL-乾燥法の研究その1

○佐藤真則¹, 猪野悠梨佳¹, 資延淳二², 稲葉重樹², 中桐昭³

¹独・製品評価技術基盤機構特許微生物寄託センター, ²独・製品評価技術基盤機構生物資源課,

³鳥取大学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

[系統分類シンポジウム](9月4日 11:15-13:15) 531 教室

(協賛: 日本微生物系統分類研究会)

「新しい微生物同定のための機器分析、MALDI-TOF/MS の利用と展開」

コンピーナー: 川崎浩子

近年、マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析(MALDI-TOF/MS)を用いた微生物迅速同定法が、新しい微生物同定法として注目を浴びています。臨床微生物検査の現場ではすでに

その使用が開始されております。現在、微生物を管理し提供するカルチャーコレクションの分野や食品企業などの品質管理分野では、一部その導入が始まっているところです。一方、MALDI-TOF/MS を用いたタンパク質の指紋判定による微生物同定法には、前処理手法、データベースの構築、実験結果のばらつき等、課題も多いところであります。そこで、この度、微生物資源の品質管理をいち早く導入されヨーロッパでその普及に努められてきた、ドイツ DSMZ の Peter Schumann 博士と、ポルトガル Minho 大学の Nelson Lima 教授と Cledir Santos 博士を招いて、バクテリアから真菌類までの幅広い微生物の同定について、本手法の取り組みと現状についてご講演いただくこととしました。さらに、名城大学の田村 廣人教授には、既存の MALDI TOF/MS を用いた微生物同定法の課題を克服する手法について、研究成果と今後の展開についてご講演いただく予定です。本手法で世界をリードする4名の先生方が一堂に会してご講演いただく日本で初めての機会です。

S2-1 (11:15～11:45)

Application of MALDI-TOF MS in the quality control of culture collections

Peter Schumann

Leibniz Institute DSMZ- German Collection of Microorganisms and Cell Cultures, Braunschweig, Germany

S2-2 (11:45～12:15)

Nuances on the Application of MALDI-TOF Mass Spectrometry for the Microbial Identification

○Cledir Santos^{1,2}, Nelson Lima¹

¹Micoteca da Universidade do Minho, Centre of Biological Engineering, Braga, Portugal

²Post-Graduate Programme in Agricultural Microbiology, Federal University of Lavras, Lavras, MG, Brazil

S2-3 (12:15～12:45)

Next generation of omics for microbial identification and characterisation: what is need?

○Nelson Lima¹, Cledir Santos^{1,2},

¹Micoteca da Universidade do Minho, Centre of Biological Engineering, Braga, Portugal

²Post-Graduate Programme in Agricultural Microbiology, Federal University of Lavras, Lavras, MG, Brazil

S2-4 (12:45～13:15)

The challenge to proteotyping of bacteria based upon the *S10*-GERMS method

Hiroto Tamura

Meijo University, Nagoya, Japan

(本シンポジウムは公益財団法人発酵研究所 IFO の助成を受けています。)